

森林資源の保全・利用と地域経済の振興に関する研究



副学長(教育、入試、研究、地域連携・国際交流、
企画・評価担当)
アドミッションセンター長
環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
教授

根本 昌彦
NEMOTO, Akihiko

SDGs 関連項目



● 研究内容

人口減少や高齢化など日本社会の将来を先取りする山村地域・社会には、一方で文化や歴史的な遺産、また、豊かな森林、生態系などの自然資源が維持されていることが多い。そうした文化資源・自然資源を新たな視点から掘り起こし、地域社会の維持・発展に資するプロジェクトを進めることは重要である。そこでは複合的な資源利用を考える必要があり、従来の一次産業を中心とした産業基盤を維持・開発することに加え、条件の良い地域をモデル的に抽出しながら、森林空間などを活かした資源利用のあり方が模索されるべきと考える。例えば、森林セラピーや森林環境教育、ロングトレイルの設計、アドベンチャーツーリズムの企画などを通して、都市部との交流で関係人口を増やしていくこと、インバウンドを含め滞在・体験型のプログラムメニューを開発し、お金の流れを外部から地域内に向けること、そのお金を含め、富が地域内に循環するような仕組みを作ることが重要である。

眠っている資源は様々あるが、現行では、鳥取市の鹿野と河原間を結ぶロングトレイルを対象にインバウンドを含めたアウトドア派観光客向けのプログラムメニューの開発、佐治漆の復活を志向する佐治漆研究会の活動との連携で6次産業化までを展望して進めるプロジェクト、環境大学周辺の森林内のトレイルを使ったSDGsツアーの開発などを行っている。

● 想定パートナー

地域振興などをテーマに活動する企業、NPO、観光産業、地方自治体、森林組合など

● 応用分野

各地域の振興策に一部応用可能

● 取組実績

安蔵森林公園事業者との連携、矢中山森林組合との連携など